

サービス事業所部会 養護・軽費老人ホーム部会

- 開催日時：2026年7月9日(木) 10:00～12:00
- 開催場所：阿南市役所 202 会議室
- 参加者：ケアハウスタラサ 管理者、老人ホーム福寿荘 相談員、ケアハウス健祥会 アンダルシア 生活相談員、老人ホーム羽ノ浦荘、在宅医療・介護連携支援センター センター長、阿南市地域共生推進課 主事

【要約】

本会議では、阿南市在宅医療・介護連携推進事業の目的確認から始まり、各施設の現状と共通課題について多角的に議論が交わされました。特に、身寄りのない高齢者増加に伴う身元引受人・成年後見制度の課題、養護老人ホームとケアハウスの制度に関する相互理解の深化、施設運営における Wi-Fi 環境整備の必要性などが主要な論点となりました。今後は、制度の理解促進のための研修会開催や、身元引受人制度の見直し、成年後見人費用の公費負担検討などを市に要望していく方針が確認されました。

【議題 1：阿南市在宅医療介護連携推進事業の概要と部会の役割】

- **要点**
 - 本部会の目的は、阿南市内の養護老人ホーム・軽費老人ホーム間での情報共有と、横のつながりを強化すること。
 - 9つある部会の一つであり、代表者会議を通じて広域の情報連携も図られている。
 - 過去には、救急搬送時の福祉施設職員の同乗不要化や、夜間救急受診時の職員待機緩和といった具体的な成果があった。
 - 市への要望事項は、地域共生推進課を通じて市で協議される。
- **決定事項**
 - 部会を通じて引き続き、施設間の情報共有と連携強化を図る。
 - 市への要望事項は武市氏を通じて市に伝えることとする。

【議題 2：各施設の現状と共通課題（日常支援・入退院・緊急対応・看取り）】

- **要点**
 - **日常の療養支援：**
 - 独居高齢者や身寄りのない方の増加は共通の課題。県外家族の増加も顕著。
 - 認知症による徘徊や介護拒否、身体的重度化への対応が困難なケースが増加。
 - **入退院支援：**

- 入退院時の連携シートによる情報共有は定着しているが、退院後の通院支援は家族不在の場合、職員負担が大きい。
 - 病院とのカンファレンスが減少傾向にあり、個別のカンファレンス開催が困難な場合がある。
- **緊急時の対応:**
 - 救急搬送時の同乗要請は減少したが、日中の同乗判断、病院での職員待機時間、帰宅指示の明確化に課題。
 - 羽ノ浦荘では 100%後追いで職員が付き添い、家族到着まで待機している。
- **看取りについて:**
 - 多くのケアハウス・養護老人ホームでは施設内での看取りは実施していない（設備面、職員体制、制度的側面から困難）。
 - 状態悪化時は、特別養護老人ホームや病院への移行を促している。
- **懸案事項**
 - 家族の協力を得られない利用者の通院支援における職員負担。
 - 病院とのカンファレンス機会の減少と、個別のカンファレンス実施の難しさ。
 - 緊急搬送時の職員同乗判断基準や、病院における職員待機時間短縮に向けた明確なガイドライン。
 - 施設での看取りに関する制度的・設備的な課題。

【議題 3：養護老人ホームの現状と制度に関する情報共有】

- **要点**
 - **入所対象者:**
 - 65 歳以上で経済的に困窮している方（年収 150 万円以下が目安）。
 - 日常生活が自立している方、または要介護 2 程度までが対象。
 - 持ち家がある場合や同居家族がいる場合は、入所が難しいケースが多い。
 - **入所判定委員会:**
 - 養護施設の施設長、市の職員、保健所の所長、医師など 5 名で構成され、月 1 回開催。
 - 申請段階で条件に合致しない場合も多い。
 - **費用システム:**
 - 入所負担金は所得に応じて異なり、無年金者は 0 円の場合もあるが、最低限の生活費は必要。
 - 所得が一時的に増えても（例：家屋売却）、翌年度は元に戻るため、継続して入所は可能。
 - **介護保険サービスの利用:**

- 養護老人ホーム入所者は、居宅介護サービス（デイサービス、訪問介護等）を外部で利用可能。
 - 利用者負担割合に応じて介護保険サービス費が発生するが、措置費から一部が給付される場合がある。
- **養護老人ホームの入居率・経営状況:**
 - 全国的に入居率が低迷しており、経営が厳しい状況。
 - ケアハウスに入居できない対象者を養護老人ホームに紹介する連携の必要性。
- **懸案事項**
 - 養護老人ホームの入所条件（持ち家の有無、自立度）に関するケアマネジャーの理解不足。
 - 入居率低迷と経営状況の悪化。
- **今後の対応・アクションプラン**
 - ケアマネジャー向けの養護老人ホーム制度に関する研修会を検討する。
 - 阿南市に対し、入所条件（特に持ち家の有無）の緩和について要望する。

【議題 4：身元引受人・成年後見制度に関する課題】

- **要点**
 - **身寄りがない高齢者の増加:**
 - 独居高齢者や身寄りのない方が増加しており、契約時の身元引受人確保が困難なケースが増加。
 - 身元引受人が高齢化している、県外在住で対応困難、連絡が取れない、亡くなっているなどの問題。
 - 身元引受人がいない場合、入院手続きや看取り、死後の対応（葬儀、遺品整理）に支障が生じる。
 - **成年後見制度の課題:**
 - 身寄りのない方や判断能力が低下した方への成年後見人選任に数ヶ月から1年以上かかる場合がある。
 - 年金収入が少ない利用者（無年金者など）の場合、成年後見人の費用負担が困難。
 - 施設側で早めの成年後見制度利用を促しているが、費用面がネック。
 - **延命治療の意思確認:**
 - 入所時に延命治療の意思を確認する施設が多いが、その見直し頻度（半年ごとなど）と、病院への情報提供の確実性が課題。
 - 意思表示が不明な場合、医療機関は延命治療を選択する傾向がある。
- **懸案事項**
 - 身寄りのない高齢者の身元引受人確保と、その費用負担。
 - 成年後見制度利用における手続き期間と費用負担（特に低所得者・無年金者への公費負担）。
 - 延命治療の意思確認の定期的な見直しと、医療機関への正確な伝達方法。

- **今後の対応・アクションプラン**

- 市に対し、成年後見人費用の公費負担や、身寄りのない高齢者支援制度の拡充を要望する。
- 各施設で身元引受人・緊急連絡先の定期的な確認と、複数人設定の推奨、第三者まで連絡先を確保するよう努める。
- 延命治療の意思確認について、定期的な見直しと緊急情報シートへの明確な記載、医療機関への情報共有を徹底する。

【議題 5：施設運営に関する共通課題（夫婦部屋・地域交流スペース・Wi-Fi 環境）】
--

- **要点**

- **夫婦部屋の利用状況:**
 - ケアハウスでは夫婦で入居しても個室利用を希望するケースが多く、夫婦部屋が空室となりやすい。
 - 補助金の関係で夫婦部屋から一人部屋への変更が困難な場合がある。
 - 養護老人ホームでは夫婦部屋が活用されているケースもある。
- **地域交流スペースの用途変更:**
 - 建築時の補助金を受けた地域交流スペースは、用途変更が困難。
 - 補助金の償却期間終了後であれば、用途変更の相談が可能となる。
 - 職員から見て倉庫など他の用途での活用が望ましいスペースがある。
- **Wi-Fi 環境の整備:**
 - 入居希望者からの Wi-Fi 設備に関する問い合わせが非常に多く、入居決定要因の一つとなっている。
 - 現状では入居者向け Wi-Fi を整備している施設は少ない。
 - 職員用 Wi-Fi はあるが、入居者への公開にはセキュリティ面での課題がある。

- **懸案事項**

- 夫婦部屋の空室問題と、個室への変更に関する補助金制約。
- 地域交流スペースの有効活用と用途変更の難しさ。
- 入居者からの需要が高い Wi-Fi 環境の整備と、セキュリティ・費用面での課題。

- **今後の対応・アクションプラン**

- 各施設の補助金償却状況を確認し、夫婦部屋の用途変更や地域交流スペースの有効活用について県・市に相談する。
- 入居者向け Wi-Fi 設備導入の可能性を検討し、今後の施設運営における競争力強化を図る。

【議題 6：徳島大学医学部生等の福祉施設見学受け入れについて】
--

- **要点**

- 10 月第 1 週に徳島大学医学部 3 年生 4 名が阿南市の福祉施設を見学予定。

- 医療センターの地域連携室職員および医師も同行し、福祉分野への理解を深める機会となる。
- 過去にはグループホーム、小規模多機能、病院の見学実績がある。
- 今回はケアハウスまたは養護老人ホームの見学を希望しており、移動距離を考慮した施設選定が必要。
- **決定事項**
 - 徳島大学医学部生等の福祉施設見学について、各施設に協力を依頼する。
 - 具体的な施設選定について調整を進める。

【議題 7：薬剤管理における居宅療養管理指導の活用検討】

- **要点**
 - ケアハウスでは看護師が不在のため、介護職員が利用者の薬剤管理を行っており、負担が大きい。
 - 薬の一包化（朝・昼・夕・寝る前など）や、袋への氏名・服用日時印字がされていない薬剤が多く、手間がかかる。
 - 居宅療養管理指導を活用すれば、薬剤師が来訪し、薬剤の一包化や管理指導を行うことが可能。
 - 処方箋に医師による「一包化」指示があれば、薬局で対応してもらえる。
- **懸案事項**
 - 介護職員の薬剤管理負担と、それに伴う誤薬リスク。
 - 医師への一包化指示の依頼や、薬局との連携不足。
- **今後の対応・アクションプラン**
 - ケアハウスにおいて、居宅療養管理指導の活用を検討し、医師への「一包化」指示依頼を積極的に行う。
 - 各施設で薬剤管理の効率化に向けた情報交換や成功事例の共有を行う。

【議題 8：今後の部会運営について】

- **要点**
 - 本部会は最低年 2 回開催とされているが、情報共有や連携強化のため、開催頻度を増やす（年 3 回程度）ことが望ましい。
 - 次期会長・副会長の選出時期と方法。
 - 会議は午前中の開催が望ましいという意見があった。
 - 年度締め報告が 2 月にあるため、1 月には最終会議が必要。
- **決定事項**
 - 本部会の開催頻度を年 3 回程度に増やす方向で検討する。
 - 次回以降の開催日時については、参加者の勤務調整を考慮し、早めに案内する。
 - 次期会長・副会長の選出については、今後協議していく。